

ヨハネの手紙第一 第4章 7節

「愛する者たち。私たちは、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。」

春風が爽やかに吹く朝、ベランダの薔薇の蕾が揺れている。一つの茎に4つの蕾が並んでついている。他にも蕾が三つ横並びに育っている茎もある。通常は一本の茎に一輪の花であるが、今回は4つ、と3つの蕾が横並びで育っている。咲き始めたら互いに窮屈だろうなと想像する。また、一つの茎から4つ、3つの蕾が栄養分を受けるとなればどうなるのだろうかと思になる。蕾により育ちのスピードはやや異なるとは思う。育つ前に茎からこぼれ落ちていくこともあり得る。

大輪をつけた他の茎を見ながら、4つ、3つの蕾の育ちに目を移す。すると、蕾を支える茎がそれぞれ外に向かって伸び始めている。花開く空間をうまく具合に確保するために伸びる。それから面白いことに、蕾の大きさ、膨らみ加減が同一ではないことだ。それぞれが思いおもいに膨らましている。

愛の栄養分をそれぞれの茎が受け、分かち合い育ち、それぞれの空間と育ちの大きさを異にして開花に備える。互いに愛することは、同じ形、同じ大きさ、ワンパターンにおさまることではなく、各自置かれた場で自由に、相応しく生きることだと教えられる。

2022年5月4日